



TAKE ACTION! 2008

Activity Report

TAKE ACTION! 2008 活動報告



TAKE ACTION!

AWARENESS 01

キャンペーンの目的



TAKE ACTION! 2008実行委員会(代表:中田英寿、運営事務局:東京都渋谷区)は、「なにかできること、ひとつ。」をテーマに、地球市民である個々人が、自らできるアクションを起こす“きっかけづくり”を目的とした『+1』(プラス・ワン)キャンペーンを行いました。

中田は現役を引退し、約2年間旅を続け世界に様々な問題があることに気づきました。また、本年2008年は、5月に横浜市で開催されたアフリカ開発会議(TICAD IV)、7月に北海道洞爺湖町で開催された主要国首脳会議(北海道洞爺湖サミット、以下G8)、平行して北海道・千歳支笏湖で開催されたJ8(ジュニアエイト)サミットなど、環境問題や貧困問題、保健・教育問題など、様々な問題を議題にした国際会議が多く開催された大切な年となり、世界の注目が日本に集まった年でもありました。

『+1』(プラス・ワン)キャンペーンは、この機会により多くの人々が問題意識を持つようになり、地球上の声に耳を傾け、現実を知り、そして考え、地球の未来のために自分の「なにかできること、ひとつ。」を行動するきっかけとなることを目標に啓発キャンペーンとして実施されたものです。



そして、この啓発キャンペーンは2つの“アクション”を軸に展開して行われました。

一つ目は、サッカー選手たちが「なにかできること、ひとつ。」として、世界共通言語であるサッカーを通してより多くの人々が、自分の「なにかできること、ひとつ。」を考えるきっかけづくりを目的とする『+1 FOOTBALL MATCH』(プラス・ワン・football・match)です。

二つ目は、G8の開幕日が7月7日の七夕であることから、日本の伝統文化のひとつである「七夕の短冊」をモチーフに、地球の未来のために「なにかできること、ひとつ。」を宣言し、仲間を募る『+1 TANZAKU』(プラス・ワン・タンザク)。より多くのTANZAKUを集めることでムーブメント化しようとするアクションです。

『+1 FOOTBALL MATCH』(プラス・ワン・football・match)はG8の開催ちょうど1ヶ月前の6月7日に横浜市の日产スタジアムにて開催、『+1 TANZAKU』(プラス・ワン・タンザク)は4月15日からインターネットを介しての展開からスタートしました。





FOOTBALL MATCH

啓発運動としてのフットボーラマッチ報告

日 時 2008年6月7日(土) 14:00 キックオフ

会 場 日産スタジアム(横浜)

JAPAN STARS

2 2
0 2

前半
後半

WORLD STARS

[得点者]

32分 大黒 将志 39分 澤登 正朗

JAPAN STARS	
監督	釜本 邦茂
コーチ	山本 昌邦

背番号	ポジション	氏名	背番号	ポジション	氏名
1	GK	下川 健一	12	GK	曾ヶ端 準
2	DF	名良橋 晃	13	MF	遠藤 彰弘
3	DF	秋田 豊	14	MF	岩本 輝雄
4	DF	中西 永輔	15	MF	奥 大介
5	DF	柳本 啓成	16	FW	大黒 将志
6	MF	山口 素弘	17	DF	中村 忠
7	MF	中田 英寿	19	DF	中田 浩二
8	MF	北沢 豪	20	MF	永井 秀樹
9	FW	松原 良香	21	MF	下平 隆宏
10	MF	澤登 正朗	22	GK	林 彰洋
11	MF	前園 真聖			

[得点者]

71分 イルハン・マンスズ 73分 イルハン・マンスズ

WORLD STARS

監督	ジョゼ・モウリーニョ
コーチ	ルイ・ファリア

背番号	ポジション	氏名	背番号	ポジション	氏名
1	GK	ベルナール・ラマ	13	DF	ホン・ミョンボ
2	DF	ゼ・マリア	14	MF	オリヴィエ・ダクール
3	DF	パオロ・モンテーロ	15	DF	マッティオ・フェラーリ
4	DF	アウダイール	16	MF	セルジーニョ
5	DF	ロッキ・ジュニオール	17	DF	スン・ジ
6	MF	マティアス・アルメイダ	18	MF	リカルド・モントリオ
7	MF	マルコ・マルキオンニ	19	MF	イ・ホ
8	MF	エドガー・ダービッツ	20	MF	ドミニ・アレニチエフ
9	FW	イヴァン・サモラーノ	21	FW	イルハン・マンスズ
10	MF	クラレンス・セードルフ	22	FW	パトリック・エムボマ
11	FW	サルバトーレ・スキラッчи	23	DF	ジュリオ・セザール
12	GK	パオロ・オルランドーニ			

14カ国 44名 参加プレーヤー



中田英寿の呼びかけ主旨に賛同し、日本まで足を運んでくれたWORLDSTARSは、13カ国/23名。また日本サッカー界からは、中田と共に世界に挑んで、その道を開拓していった96年五輪、98年W杯同志を中心としたメンバー21名が参加しました。



63,143名 観客動員数

「サッカーを通じて地球の声を伝える」この主旨に賛同したプレーヤーたちをきっかけに、63,143人という大人数が会場である日産スタジアムに集いました。これはJリーグのリーグ戦の過去最高動員数を越える快挙を示す数値となりました。





TAKE ACTION! 2008

TAKE ACTION
06.07.2008

AUDI

FOOTBALL MATCH

啓発運動としてのフットボーラマッチ報告

182,341人 RELAY MAIL 参加者

63,143人集まったスタジアムで、今回共有した思いを多くの人に伝えようという実験的な試みでした。メッセージの入ったメールを友人に伝えるという+1リレーメールをその試合当日6月7日に、182,341人へと伝播していきました。



+1 TANZAKU フラッグ

日本がホスト国となり開催されるG8(先進国首脳会議)、その開幕日が7月7日の「七夕」であることから、日本発信の文化にちなんで「TANZAKU」に地球の未来に向けて、自分の身近な「なにができる事、ひとつ。」を宣言するキャンペーンを実施。『星に願いを地球に誓いを』をキャッチコピーに、漠然とした意識を言葉で記することで、自分の意識向上、そして行動に移すことを目的に実施しました。

選手入場時にプレーヤーを先導した大きなTANZAKUフラッグは、試合開始前に約500名の皆様から「なにができる事、ひとつ。」の誓いが集まりました。

またこのフラッグは、7月2日のJ8開会式にて中田より各国代表のこども達に手渡されました。

(『+1 TANZAKU』の活動詳細は7~8ページをご参照ください。)



今回の主旨賛同の意志を伝えるグリーンのシートを掲げ、選手を迎えた。



TAKE ACTION! 2008

TAKE ACTION!
06.07.2008

FOOTBALL MATCH

環境にやさしいフットボールマッチ

50%削減 ゴミの排出量が半減

試合の実施にあたり、できる範囲で環境配慮に勤めました。

ゴミ廃棄量の半減達成

「同スタジアムにて開催された同規模のイベントと比較してごみの量が約50%程度の少ない廃棄量であった」といううれしい報告が届きました。これは自発的に試合後ゴミを集める人、持ち帰る人、ゴミを出さない努力をしている意識の高い人が集まり、行動に移した結果現れた現象です。これは人の意識の変化が、地球の未来にも大きな一歩として寄与する可能性を示してくれました。



リユースカップの導入

会場となった日産スタジアムには、何度も使用できるプラスチック製の『リユースカップ』導入のご協力をいただき、できるだけ紙コップの利用を抑えるよう努めました。

ストーンペーパーの導入

環境への配慮を目的に、キャンペーンのポスター、ちらしには一切木材(パルプ材)を使用せず、石灰石を利用して作られるストーンペーパー(ViaStone社提供)を採用しました。また会場配布のアイテムも再生原料を利用したリサイクルアイテムで実施しました。



CO₂ 72,485kg カーボンオフセットを実施

6万人規模の人を集め、サッカーを通じてメッセージを伝えることに伴い、環境に配慮しつつも発生してしまう温室効果ガスについて、カーボンオフセットという方法で環境負荷を軽減します。下記の3項目から排出されるCO₂は、横浜市環境創造局のご協力によって72,485kgと算定され、TAKE ACTION!2008実行委員会がカーボンオフセットプロバイダ(カーボン・オフセット・ジャパン)にCO₂の削減(相殺)を依頼しました。国連の認証排出権である「CER」(Certified Emission Reduction)にて、カーボンオフセットが実行されます。

海外選手のエアフライト
往復のCO₂排出量

試合当日の電力消費量

ゴミの焼却、
処分時CO₂排出量



公式WEBサイトのグリーン電力利用

多くの情報を発信し続けたTAKE ACTION!2008公式WEBサイトはそのサーバーの電力消費を、グリーン電力の購入でまかないとしました。

AWARENESS 05

出場選手・監督より寄せられた声

■ ジョゼ・モウリーニョ

「より良い世界を作ろう！子供達に安全で幸せな世界を残していく！」という素晴らしい目的のプロジェクトに参加できることを嬉しく思います。そして、私も監督をするからには、素晴らしい歴史を持つ日本のチームと戦えるよう最高のチームをつくり上げ、このプロジェクトを盛り上げたいと思います。

■ クラレンス・セードルフ

治療より予防が大切。

今日の試合は日本から世界へのプレゼントでもあると思います。「なにかできること、ひとつ」として、人に何か良いことをすれば、いつか自分にかえってくるはずです。

■ エドガー・ダービッツ

ひとりひとりが意識をして行動を起すことが大事。家庭の中から少しずつ1歩を踏み出して世界を変えていく。個人的には、サッカーを通して教育問題に関わりたいと考えています。

■ 前園真聖

この試合への出場を持ち掛けられた時から、何か自分ができることを探しました。この試合への出場も自分にできるTAKE ACTION! であるし、来てくれた人がこれをきっかけにTAKE ACTION!として、皆さんへ意識が広がればいいなと思います。

■ 北澤豪

環境問題・世界の気になることなど、ヒデの口にしていることを聞きながら自分に出来ることを探しました。世界の抱える問題に対して、ポジティブになれて本当に良かったと思います。サッカーのおかげ、ヒデのおかげだと思います。



AWARENESS 06



啓発運動としてのTANZAKU報告

18,769名  参加宣誓者数



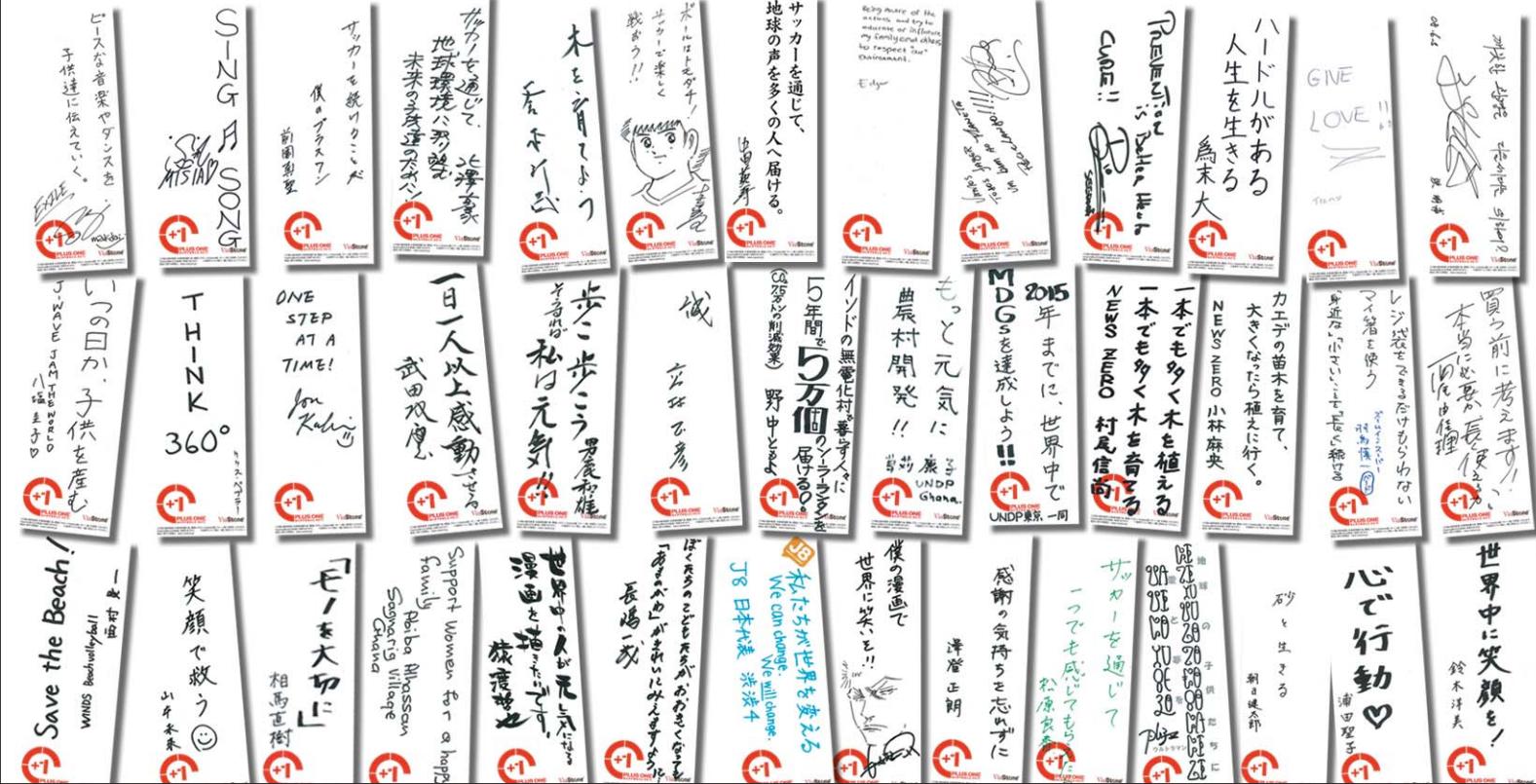
日本がホスト国となり開催されるG8(先進国首脳会議)、その開幕日が7月7日の「七夕」であることから、日本発信の文化にちなんで「TANZAKU」に地球の未来に向けて、自分の身近な「なにかできること、ひとつ。」を宣言するキャンペーンを実施。『星に願いを地球に誓いを』をキャッチコピーに、漠然とした意識を言葉で記すことで、自分の意識向上、そして行動に移すことを目的に実施しました。

公式ウェブサイトでの募集に加えて各地でイベントを実施。キャンペーン趣旨にご賛同いただいた各機関や施設のご協力の元、石から作られた紙「ストーンペーパー」のTANZAKUに地球への誓いを記入できる場を設けました。中田英寿が世界を旅する中で、様々なことを経験し、様々な人に出会い、TAKE ACTION! 2008に至ったことをモチーフとし制作された地球儀型の投函BOXも設置し、さらに日本だけでなく、各国著名人からのTANZAKUも展示しました。

皆様からお寄せいただいたTANZAKUは、7月7~9日まで北海道洞爺湖にて行われたG8サミット、その直前に行われたこども達によるJ8サミットの会場に届けられ、一部のTANZAKUは各会場にて展示されました。

いまを知り 未来を思い 自分が正しいと思う何かをやってみること 小さな一歩でも 踏み出すこと。
+1 TANZAKUが、参加いただいた皆さんのが“一歩のきっかけとなり”誰かの一歩を生むことにつながり、未来的の地球を想う心を共有する場としての機能も果たしました。

(皆様から寄せられたTANZAKUは、www.takeaction2008.com/communicate/にてご覧下さい)



AWARENESS 07



TANZAKU 内容紹介



WEB	4月15日～7月7日 5月15日～7月7日	TAKE ACTION! 2008公式ウェブサイト www.takeaction2008.com TAKE ACTION! 2008公式モバイルサイト
イベント	5月24日～6月26日 5月23日～26日 6月2日～8日 6月7日 6月14日～22日 7月4日～7日	アディダス店舗 横浜 みなとみらい 汐留 日本テレビエコワーキー会場 横浜 +1 FOOTBALL MATCH会場 ※TANZAKUフラッグ 表参道 表参道ヒルズ 六本木 六本木ヒルズ
掲出	7月1日～10日 7月7日～9日	北海道 支笏湖 J8サミット会場 北海道 洞爺湖 G8サミット会場



試合前に選手を先導する大会旗は、会場に集まつた人のTANZAKUの誓いで埋まった。

AWARENESS 08

啓発結果・メディア露出報告

キャンペーンの目的である啓発活動を推し進めるために、様々なメディアに紹介いただき、一般の方にも多くのところで、このキャンペーンに関し知りたすこととなりました。新聞での露出数、雑誌での表紙などを含めた大型特集、またテレビでも数回にわたり特集を組んでいただくななど、他に例をみない規模での露出といえ、認知度も高いものとなりました。

掲載媒体数

- ・テレビ……**122** 媒体
- ・新聞……**995** 媒体
- ・雑誌……**133** 媒体
- ・W E B……**821** 媒体
- ・ラジオ……**J-WAVE** 他
- ・合計……**2071** 媒体

発行部数

- ・新聞……**484,345,227** 部
- ・雑誌……**37,584,864** 部
- ・合計……**521,930,091** 部

※掲載数、発行部数は、実行委員会で確認できているものになります。

4月15日 東京大学 福武ホールでの会見



「リアルタイム」



「すばると」



スポーツ報知



5月14日 東京ヴェルディとの練習試合



「スーパーNEWS」



サンケイスポーツ



スポーツニッポン



ワード検索

AWARENESS 09

啓発結果・メディア露出報告

6月2日 特別番組「中田英寿 僕が見た、この地球。～旅、ときどきサッカー～」



6月6日 メンバー発表

サンケイスポーツ

6月7日 +1 FOOTBALL MATCH



AWARENESS 10

啓発結果・メディア露出報告

6月8日 試合結果、TANZAKUなど



「eco特番」



「やべっちFC」



スポーツニッポン



日刊スポーツ



朝日新聞

ヒデ 観客の前に立つ

引退後初、エキシビション

サッカー元日本代表MFの中田英寿さん(31)が7日、横浜・日産スタジアムで、自ら呼びかけ人となったエキシビションマッチに出場。08年の現役引退後、初めて国内の有料試合でピッチに立った。

観客8万3143人が詰めかけ、中田さんら元日本代表中心の日本選抜と、元カ梅ーン代表FWのエムボマラが参加した世界選抜が対戦。2-2で引き分けた。中田さんは前半にポストをたたくショートを放ったが、後半は動きず、「もう少し観客を沸かせられると思ったが物足りない」と苦笑した。

7月2日～3日 J8サミット



「NEWS ZERO」



河北新報



静岡新聞

7月7日



「NEWS ZERO」

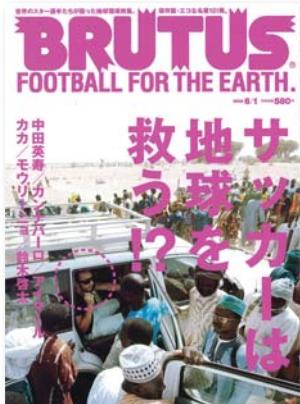


静岡新聞

AWARENESS 11

啓発結果・メディア露出報告

雑誌



5月15日「BRUTUS」



5月22日「Number」



5月24日「GOETHE」



5月25日「Invitation」



6月28日「Imagine」



7月24日「GOETHE」

ラジオ



J-WAVE 「TIME TABLE 2008」

PLUS ONE! ACT FOR EARTH 2008

ACT FOR EARTH 2008

GREEN CAFE DAY

GROW GREEN PROJECT

TAKE ACTION! 2008

FOOTBALL MATCH

DELICIA

ACT FOR EARTH 2008

GREEN CAFE DAY

GROW GREEN PROJECT

TAKE ACTION! 2008

FOOTBALL MATCH

DELICIA

TAKE ACTION! 2008

GREEN CAFE DAY

GROW GREEN PROJECT

TAKE ACTION! 2008

FOOTBALL MATCH

DELICIA

AWARENESS 12

皆様から寄せられた声

■上手く言葉に表せませんが、やっぱりサッカーは偉大ですね。地球のために、友達の為に、活動を続けていくこと、私ももっと頑張ります！

■何をしたらいいのかわからない部分がたくさんあるけど、本当ににか“簡単に”できることひとつ、から始めていきたいなど強く感じました。何をすればいいのかというヒントも今回の試合を通じて見つけることができるかもしれない、そういう意味でも今日の試合を楽しみにしています。

■"TAKE ACTION!" ゴミを拾うなど出来る事から少しづつ取り組みたいと思います。

■私も、「なにかできること、ひとつ」を意識して、日常生活の中でできる簡単なことから、地球のために、取り組んでいきます！ 今日のようなサッカーイベントをまた開催してください！

■ TAKE ACTION +1 !

最近はレジ袋をもらわないようにしています。もう一步進むために、これからは店員さんに、「袋はいかがいたしますか？」と聞かれる前に、自分から「袋はいらないです」と言えるようにしたいなと思います！

■毎日のようにエコの言葉を聞く今日この頃。毎日、資源の無駄遣いをやめようと心がける事が、やがて大きな結果を生み出すことに繋がると信じて、コツコツ取り組みたいと思います。今回のようなエキジビジョンマッチやTANZAKUプロジェクト以外にも、これからどんなイベントが行われていくのか、とても楽しみにしています。

■TAKE ACTION! の活動、興味を持ってみてています。この活動のいいところは、強制ではなく、自らが考えるところ。やるかやらないかは自分次第。ただ、考える『きっかけ』をサッカーを通じて、提供しているところが素晴らしいです。ヒデのメッセージが広まっていくことを願っています！

■TANZAKUに書かれていた事を皆が本当に行動に移せたら、素敵ですよね。そして皆にそれを気づくきっかけを与えてくれたヒデのActionはとても大きな一歩だと思いました。本当にありがとうございました♪

■今日の試合は家族とともに参加しました。うちは、今年5歳になる男の子がいます。いままだ、幼稚園の年少で読

み書きができません。絵もろくに書くことができません。私が『TANZAKU』を書いていると、「自分も書く！」というのです。「なんでもいいから、書きな」と言ってペンを持たせたら、何を書いたと思いますか？もちろん、字は書けません。彼が書いたのは、『スマイル』でした。へたくそで、簡単ですが、人の顔とわかる程度の顔。そして、その顔は『笑顔』でした！ サッカーを通じて何か大切なことを感じることができました。ありがとうございます。微力ながら、これから活躍も応援します！『大河の一滴』ですけど。

■今日の「TANZAKU」会場からのTV出演、昨日の試合同様とても大きな良い影響を与えたと思います。「TANZAKU」に誓うという方法は、自然に行動に移す力になりますものね。「TANZAKU」も是非毎年続けていってくださいね。

■実は「+1 FOOTBALL MATCH」が私にとって初めてのサッカー観戦でした。自分にできるTAKE ACTION・・・このFOOTBALL MATCHのことを知り、観戦に行けたことが第一歩でした。サッカーと環境問題、これらがヒデさんの呼びかけにより、私の中で身近なものに感じる1日にしてもらえたことにありがとうございます。お伝えしたかったのでメールしました。

- ・ごはんを残さずに食べる。
- ・早寝早起きをする。
- ・物を大切に、出来るだけ長く使う。
- 私に出来る小さなことから始めます。

■ここ最近、自分自身もエコを心がけていて、バッケはもちろん、ゴミの捨て方や電気、水道にも気をつけています。

■環境問題・・・というとすごく大きなことのようにおもうけれど、このキャンペーンで謳っている、「なにかできること、ひとつ」というのは、わかりやすかったです。

■試合はほんの2時間だったけど、とっても地球について考えられた有意義な時間になりました。

■エコ活動もとても素晴らしい感じ、私自身も、少しづつ無理のない程度に頑張って、これから子供達のために生きていこうと思っています。

■「なにかできること、ひとつ。」私は“食器洗いの時、水を出しち放しにしない”ことから始めていこうと思いました!!

AWARENESS 13

後援団体から寄せられた声

財団法人日本ユニセフ協会

サッカーは先を読むゲーム。選手たちは、ピッチ上で、ゴールを決めるためのチャンスをどう切り拓くかを常に考えています。1999年以来続く、ユニセフと国際サッカー連盟(FIFA)の協力関係も、まさにそのようにして続けられてきました。サッカーが子どもたちの発達にもたらす大きな恩恵を頭に描きながら、それをいかに形にするか、互いに連携して“プレー”しています。HIV／エイズの危険性を啓発したり、就学率や退学率の高い女の子の教育を推進したり、紛争や暴力が頻発する地域で子どもたちに一定のルールの中で友人と力を合わせて問題を解決する力をつけてもらうため…多くの目的のために、世界でもっとも人気のあるこのスポーツを活用してきました。

「教科書」や「先生」「専門家」と呼ばれる人々の言葉では、えてして伝わらないメッセージを、未来を担う子どもたちに伝える力を持つサッカー。TAKE ACTION! 2008『+1 FOOTBALL MATCH』は、そんな、日本ではまだあまり知られていないサッカーの社会的な側面、そしてこのスポーツが持つ社会的な「力」の片鱗を、私たちに見せてくれたのではないでしょうか？

6月7日、日产スタジアムには、本当に大勢の子どもたちの姿がありました。「なにかできること、ひとつ」。未来的の日本を、そして世界を担う彼ら・彼女らにも、このメッセージが伝わったことでしょう。

世界の子どもたちのために、これからも、是非、「なにかできること、ひとつ」。

Unite for Children



AWARENESS 14

チャリティー活動報告

8,929,500円  **CHARITY RAFFLE**



啓発・意識の向上を第一義に掲げながら、このイベントが近づき起こってしまった大きな自然災害、ミャンマーのサイクロン、そして中国四川の大地震。このTAKE ACTION!2008の「なにかできること、ひとつ」として、『+1チャリティーラッフル』を実施しました。試合当日会場にて500円の寄付ごとに1枚のラッフルチケットを配布し、参加選手の賛同により全選手のサイン入りユニフォーム44枚を抽選でプレゼントしました。楽しみながら参加しそれが社会貢献につながる、をテーマに行いました。

試合当日の寄付総額は8,929,500円。以下の通り2つの寄付先へ総額の50%、4,464,750円ずつ寄付されました。このチャリティーラッフルの制作費、人件費など実施運営費は、TAKE ACTION!2008実行委員会からすべて捻出いたしました。

またTAKE ACTION!2008実行委員会では、事業の収益からイベント終了後に国内で発生した宮城・岩手大地震に対し、ラッフルと同額の4,464,750円を寄付いたしました。

寄付された合計金額は **13,394,250円**となりました。

**ミャンマー・サイクロン食糧支援
WFP世界食料計画を通じて寄付**

入金された
寄付金額

4,464,750円

どのようなプロジェクト(活動)に利用されるか www.wfp.or.jp/

6月9日現在で、WFPはサイクロン被災地に向け高カロリービスケット、穀物など1万1千トンの食糧を輸送済みで、うち5千トン以上はすでに被災者の手元へ配給されました。食糧を受け取った人数はおよそ50万1千人に上ると見られます。WFPの計画では今後も75万人の被災者に6ヶ月間の食糧支援を行う予定です。

**中国・西部大地震復興支援
JICA(国際協力機構)基金を通じて寄付**

入金された
寄付金額

4,464,750円

どのようなプロジェクト(活動)に利用されるか www.jica.co.jp/Index-j.html

「世界の人々ためのJICA基金」を通じて中国・西部大地震により被災された人々の心のケアや暮らしの安定、安心して住めるコミュニティづくりに向けた復興支援に役立てます。

**岩手・宮城内陸地震義援金
日本赤十字を通じて寄付**

入金された
寄付金額

4,464,750円

どのようなプロジェクト(活動)に利用されるか www.jrc.or.jp/

被災者を救護するため救護班を現地に派遣、また被災者に救援物資を配分するなど、発災直後の緊急救援から、被災者の自立を支援する中・長期的な活動まで、様々な災害救護活動を展開します。それぞれの県に設置された災害義援金募集配分委員会を通じて被災者に配分されます。

AWARENESS 15

マラリア対策の為の蚊帳配布プロジェクト

(財)日本ユニセフ協会を通じて寄付

寄付総額 28,955,881円

配布される蚊帳 約35,000 張 (オリセットネット、190cm×180cm×150cm 家族用)

配布地域 コンゴ民主共和国北部キブ州ムトゥアンガ



～LOUIS VUITTON CHARITY GALA for “TAKE ACTION!”～

今回のTAKE ACTION!の主旨に賛同いただいたラグジュアリーブランド、ルイ・ヴィトンが主催したチャリティーガラに、『+1 FOOTBALL MATCH』の参加選手が招待されました。ガラの中でTAKE ACTION!2008に賛同くださった方々から提供された世界初、もしくは、世界に一点しかない品々や通常提供されることのない体験型の権利などを含めたチャリティーオークションが行われました。チャリティーガラによる収益金2,895万5,881円は(財)日本ユニセフ協会を通じて妊婦と子どもを主な対象としたマラリア予防ための特別なプロジェクトに寄贈されることになりました。

中田は旅をしたアフリカの各地にて、地球温暖化に起因するマラリア発症の増加を目当たりにしました。

特にコンゴ民主共和国では、5歳以下の子どもの死亡率が世界でも最も高い地域の一つで、1,000人あたり148人の子どもが5歳を迎える前に死亡、1年間に301,000人の子どもが死亡しています。マラリアは、コンゴ民主共和国において、子どもの死亡率と疾病率の大きな一因であり、毎年マラリアにより、およそ200,000人が死亡しており、その多くが5歳未満の子どもです。コンゴ民主共和国の5歳未満の子どもは、マラリアによる発熱を年平均7回経験し、病院の患者の10人に3人がマラリア患者です。

北部キブ州のムトゥアンガはコンゴ民主共和国の東部に位置し、アクセスが悪く、物資が入りにくい農村部であるため、殺虫剤塗布済みの蚊帳(LLIN)の供給が限られており、マラリアによる死亡率と疾病率が特に高い地域となっています。

LLINの下で眠る妊婦の人口の割合は国平均で7.1%であるのに対し、北部キブ州は2.4%。また、LLINの下で眠る5歳以下の子供の割合は国平均が5.8%であるのに対し、北部キブ州はたったの2%。

そこで、チャリティーオークションの収益金は、(財)日本ユニセフ協会を通じてマラリア予防の為約35,000張のLLIN、オリセットネットを特に必要とされている、ムトゥアンガに配布するプロジェクトに寄付されることとなりました。尚、オリセットネットの現地配布は2009年2月より開始され、10万人の人びとがマラリアを予防できるようになる事を目指します。





TAKE ACTION! 2008

主催 TAKE ACTION! 2008実行委員会

外務省
環境省
横浜市
財団法人日本サッカー協会

後援・協力団体
社団法人神奈川県サッカー協会
国連開発計画(UNDP)
財団法人日本ユニセフ協会(Japan Committee for UNICEF)
独立行政法人国際協力機構(JICA)
特定非営利活動法人 国連WFP協会

アウディ ジャパン 株式会社
シチズン時計株式会社
住友化学株式会社
ディップ株式会社
TOTO株式会社

協賛企業
日本航空
HYOSUNG(株式会社暁星)
ボルヴィック
エステティックTBC
株式会社ミロク情報サービス
株式会社リソー教育

協力企業
アディダス ジャパン株式会社
ViaStone™ Japan
株式会社J-WAVE
ぴあ株式会社
モバゲータウン
Kouki Nagahama(KODANSHA)
Kaoru Watabe(KODANSHA)
Masahiro Okamura
Masakazu Matsumoto
©SUMITOMO Chemical

参加選手

釜本邦茂／山本昌邦／松原良香／大黒将志／山口素弘／中田英寿／北澤豪／澤登正朗／前園真聖／遠藤彰弘／岩本輝雄／奥大介／永井秀樹／下平隆宏／名良橋晃／秋田豊／中西永輔／柳本啓成／中村忠／中田浩二／下川健一／曾ヶ端準／林彰洋／ジョゼ・モウリーニョ／ルイ・ファリア／サルバトーレ・スキラッチ／パトリック・エムボマ／イルハン・マンスズ／クラレンス・セードルフ／エドガー・ダービッツ／マティアス・アルメイダ／マルコ・マルキオンニ／リカルド・モントリーボ／セルジーニョ／オリヴィエ・ダクール／ドミトリ・アレニチェフ／イ・ホ／アウダイール／ロッキ・ジュニオール／ゼ・マリア／パオロ・モンテーロ／マッテオ・フェラーリ／ホン・ミョンボ／スン・ジ／ジュリオ・セザール／ベルナル・ラマ／パオロ・オルランドーニ